

藤家日記にみるフェートン号事件

長崎史談会 幹事 井手勝摩

藤家は元禄6年(1693)以来、明治維新まで代々桶屋町の乙名を勤めた家柄である。同家の膨大な日記が現存し、町民側から見た長崎学の貴重な資料となっている。その中に文化5年(1808)のフェートン号事件前後のものがあり、町民側からの記録としては稀少なものではないかと思っている。この年、桶屋町は唐船辰五番船の宿町で、荷役の最中で最も多忙な時であった。日記の大部分が本船関係であるが、その中に本事件に関するものが散見されるので抜粋する。

日記との照合のためフェートン号事件を簡単に記すと、文化5年(1808)8月15日 ヨーロッパのナポレオン戦争時、イギリス軍艦がオランダ船拿捕の目的でオランダ国旗を掲げ長崎



湊に侵入、オランダ人2名を人質にとり長崎港内をボートで捜査。長崎奉行松平図書頭康英は、この年の長崎警備担当であった佐賀藩に拿捕の命令をだすが、佐賀藩の警備兵はオランダ船の入港がないため、人数を大幅

に減らしていたので何もすることが出来なかった。

港内にオランダ船が居ないことを確かめた同艦は薪と食料、水を求め、奉行はこれを認めたので人質を返し、17日昼過ぎに立ち去った。長崎奉行松平図書頭は責任を感じ18日未明(17日夜半?)西役所で割腹自害した。しかしこのことは市民には秘扱いとされ、図書頭家の御家存続の目途がついてから公表されたと言われている。

8月15日

申中刻(午後4時)、異国船渡来。右に付忌中に候得共出勤いたす。尤同役一統に帯刀御免し成らせられ候。右に付き町内取締りの外、番所詰、見物人などの儀、急度申し渡す。

8月17日 出勤。異国船午下刻(午後1時)頃出帆。

8月19日 夜 図書頭様御癪気にて御勝れに成らせられず段、之に依る趣、年番より総代として御機嫌伺い候得共、出入りの向きは罷出で候様申し来る。右に付、平服にて御機嫌伺いとして御広間へ罷り出る。

8月21日

① 組合筆頭より呼び参り候に付罷出で候処、御奉行様御病氣に付、町内中取締り厳しく申し付け候様、且又浮説申し触れまじき旨、申し付け候様申し聞かされ候。

② 町内老年、同若者の内、右之者共呼び出し御奉行様御病氣に付、物静かに罷りあり候様、厳しく申し渡す。且又酒宴の上三味線または奏など致さず候様急度申し渡す。猶又浮説申し触れまじき旨、並追売り致さず候様嚴重に

申し渡す。但末々へ行き届き、最寄に相達し候様申し付ける。右の段、町人借家へ洩れざるよう申し触れるべく旨、下役へ申し付ける。

8月26日

図書頭様御風邪にて御胸病の処、寅中刻(午前4時)御逝去成させられ候旨回状来る。右に付麻袴着、御悔やみの為御広間へ罷り出る。(一部省略)

① 一七日の間鳴り物、音曲、作事など遠慮すること

② 同役中は勿論、役懸りの向きは御中陰中相慎むこと

③ 喧嘩口論相慎むよう申し渡すよし

④ 火の元入念申すべきこと

⑤ 昼夜自身番処へ町役人一人、町人一人、借家一人相詰め申すべきこと、且又竹挽をいたさせ候こと

⑥ 組合中不時廻り致すべきこと

右の通申し触れさせ相済。

8月27日

正九ッ時(12時)、御葬送に付西役所前にて御礼相勤。大音寺迄御供いたす。

8月28日 現光院殿御位牌所へ参詣致す。

8月29日

明後晦日大音寺に於いて御齋下され候、五ッ時(8時)同寺へ御出之有べく候。八月廿八日 年行使

8月晦日

御法事の御案内之有候得ども、出役に付罷り出ず。尤出役相済候後御廟所へ参詣致す。

9月朔日 大音寺へ参詣致す。

9月3日

曲淵甲斐守様御着之有候得ども、出役に付御迎え罷り出ず。大音寺へ参詣致す。

銀1貫目 七十七町並銅座跡共の七十八に割、十二匁八分三厘 此錢一貫四百二十六匁也

右は現光院殿御墓所へ石灯笼一对代、来る七日迄当番町へ持たせ遣わし候様、堀より回状来る。

(註)惣町に銅座跡が加わり78町になっている。



大音寺総門の寺内側にある灯笼一对

9月17日 現光院様御当日に付、大音寺へ参詣致す。(註)「当日」が「命日」なのか不明だが、26日を死亡日とすると7日ごとの忌日では日数が合わないなので、死亡日はその後8月17日になったのではないかと推定している。 終